

山梨県東八代郡豊富村

平成16年度
村内遺跡発掘調査報告書

2005

豊富村教育委員会

山梨県東八代郡豊富村

平成 16 年度
村内遺跡発掘調査報告書

2005

豊富村教育委員会

序

豊富村は、甲府盆地の南部に位置し、北西を流れる笛吹川と東南に連なる御坂山塊の間に開けた山川に囲まれた自然にあふれる村であり、有形・無形を問わず、文化財の宝庫でもあります。

近年の各種公共事業や民間の開発に伴い、遺跡調査の機会も年ごとに増してきているのが現状です。

本報告書は、平成16年度に豊富村内で実施された各種開発に伴う埋蔵文化財発掘調査をまとめたものです。

中でも熊野原遺跡は、これまで調査事例の少ない浅利区内にある遺跡ですが、方形周溝墓を1基調査し、その規模を把握できたことは大きな成果と言えるでしょう。

なお、今回の調査にあたり、ご指導・ご協力をいただきました地元地権者の方々をはじめ、関係各位に厚く感謝申し上げます。

本報告書が今後、有意義に活用されることを希望いたします。

2005年3月31日

豊富村教育委員会

教育長 萩原保正

例　　言

- 本書は平成 16 年度に山梨県東八代郡豊富村内で発掘された遺跡調査の報告書である。
- 発掘調査及び出土品の整理は、豊富村教育委員会が実施した。
- 本書における出土品及び記録図面・写真は豊富村教育委員会が保管している。
- 本報告書の執筆・編集・写真撮影は岡野が行った。
- 本調査にあたり、山梨県教育庁学術文化財課及び豊富村各区の住民の皆様、地権者の皆様のご指導、ご理解をいただきながら調査を進めることができた。心から謝意を表する次第である。
- 発掘調査・出土品の整理及び報告書の作成については、次の方からご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。(敬称略)
新津健・出月洋文・吉岡弘樹・保坂和博(山梨県教育庁学術文化財課)、中山誠二(山梨県教育庁学術文化財課博物館建設室)、林部光(中道町教育委員会)、和田豊(三珠町教育委員会)

調　　査　組　織

調査主体	豊富村教育委員会
調査担当者	岡野秀典(豊富村教育委員会文化財担当)
事務局	萩原保正(教育長)・長田茂夫(教育課長)・小沢誠(社会教育係長)・渡辺一秀(学校教育係長)・岩間賢・岩下昭吾・菜袋寿子
調査・整理	河野紀久代・桜井幸子・塚田人子・塚田よ志江・中沢浦子・萩原まつ江・村松みどり・村松もとみ・
参加者	

目　　次

序

例言・調査組織

目次

第1章 平成 16 年度の調査概要 ······ 1	第2章 代中東遺跡の調査 ······ 3
第3章 上野原遺跡の調査 ······ 5	第4章 熊野原遺跡の調査 ······ 7
第5章 原遺跡の調査 ······ 17	第6章 中尾遺跡の調査 ······ 19
写真図版	

第1章 平成16年度の調査概要

No	通称名	ふりがな	所在地	コード		調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査 種類
				市町村	遺跡番号							
1	代中東	だいちゅう ひがし	山梨県東八代郡 富村	県 村	19328 7	2004.4.30	4.0	個人住宅	縄文・近世	なし	縄文土器・ 陶磁器	試掘
2	上野原	うえのはら	木原1780-1	県 村	20006 10	2004.9.6	4.0	個人住宅		なし		試掘
3	猪野原	くののはら	浅利2562,2696, 2697-1	県 村	20011 30	2004.9.14 ~2004.10.7	312.0	商業施設 営事業	縄文・弥生・ 方形周溝墓・ 溝・土坑	なし	縄文土器・弥生 土器・黒曜石	試掘
4	原	はら	木原277,282, 284	県 村	20024 17	2004.12.15	57.0	公園造成				本
5	中尾	なかお	木原1380-3	県 村	20008 5	2004.12.16	12.0	個人住宅	縄文	なし	縄文土器	試掘



- | | | | |
|---------|---------|---------|-------|
| 1 代中東遺跡 | 2 上野原遺跡 | 3 熊野原遺跡 | 4 原遺跡 |
| 5 中尾遺跡 | | | |

第1図 調査遺跡分布図

第2章 代中東遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字代中に所在し、甲府盆地の南側から東側に連なる曾根丘陵の北へ張り出した台地上に立地する。

当遺跡内で個人住宅の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は4m²である。

平成16年4月30日 発掘調査を開始

平成16年4月30日 発掘調査を終了

平成16年5月6日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成16年5月6日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2mの試掘坑を1か所設定し、第1区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第III層までの深さは30cm前後である。

第I層 褐色土（耕作土）

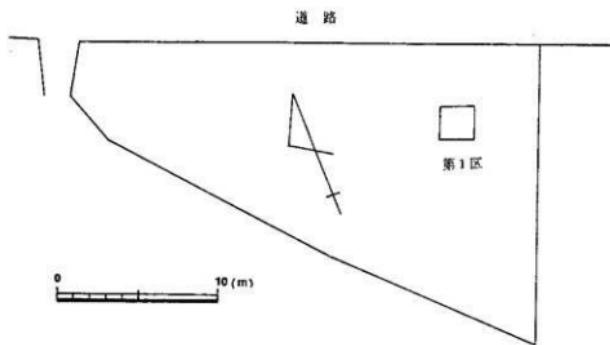
第II層 黄褐色ローム

第3節 まとめ

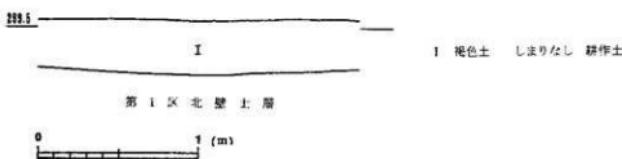
調査の結果、縄文時代中期と思われる縄文土器の破片が数点と近世と思われる土器の破片が1点出土したが、遺構は出土しなかった。



第2図 調査区位置図 (1/5,000)



第3図 全体図



第4図 土層図

第3章 上野原遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字上の原に所在し、曾根丘陵の一角に広がる台地上に立地する。当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘及び一部調査区を拡張した調査を実施した。調査面積は4m²である。

平成16年9月6日 発掘調査を開始

平成16年9月6日 発掘調査を終了

平成16年9月8日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて1×2mの試掘坑を2か所設定し、それぞれに1～2区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは50～80cmである。

第Ⅰ層 褐色土（耕作土）

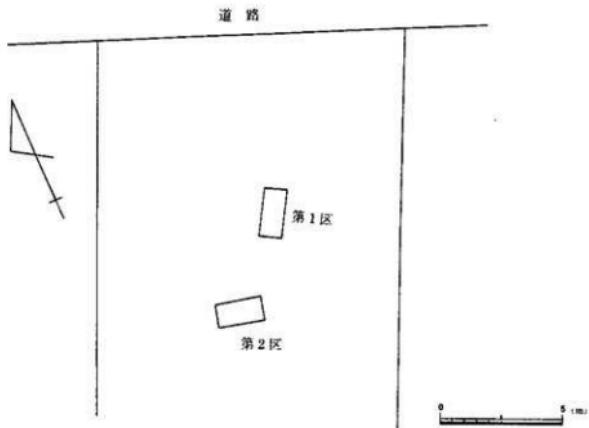
第Ⅱ層 黄褐色ローム

第3節まとめ

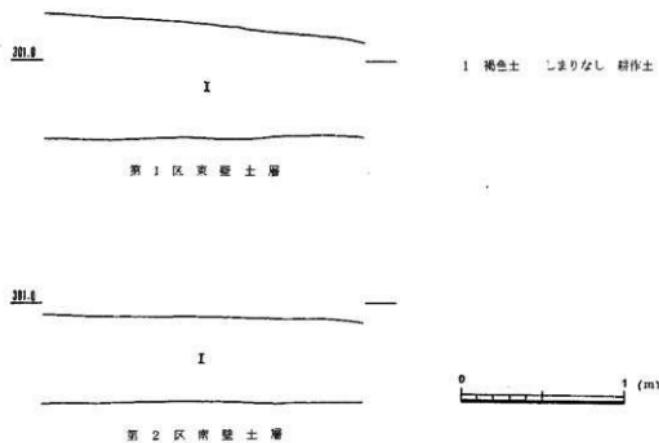
調査の結果、遺構・遺物ともに出土しなかった。



第5図 調査区位置図 (1/5,000)



第6図 全体図



第7図 土層図

第4章 熊野原遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村浅利字熊の原に所在し、甲府盆地の南側に連なる曾根丘陵の台地上に立地する。

当遺跡内で中山間地域整備事業による圃場整備事業が計画され、平成15年度にて試掘した結果、方形周溝墓の一部が検出されたため、その部分を拡張して本調査を実施した。調査面積は262m²である。また、他の地区にも3本のトレーナーを設定して試掘調査を実施した。その調査面積は50m²である。

平成16年9月14日 発掘調査を開始

平成16年10月7日 発掘調査を終了

平成16年10月12日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成16年10月18日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に東西12~16m、南北16~26mのI区と名づけた調査区を設定し、遺構確認面としてローム上面まで重機にて掘り下げた。

また試掘調査として、2×10mが2本、2×5mが1本の計3か所のトレーナーを設定して、昨年度の続きをとして、それぞれに7~9区と名づけて掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。地表から第II層までの深さは20~50cm程度である。

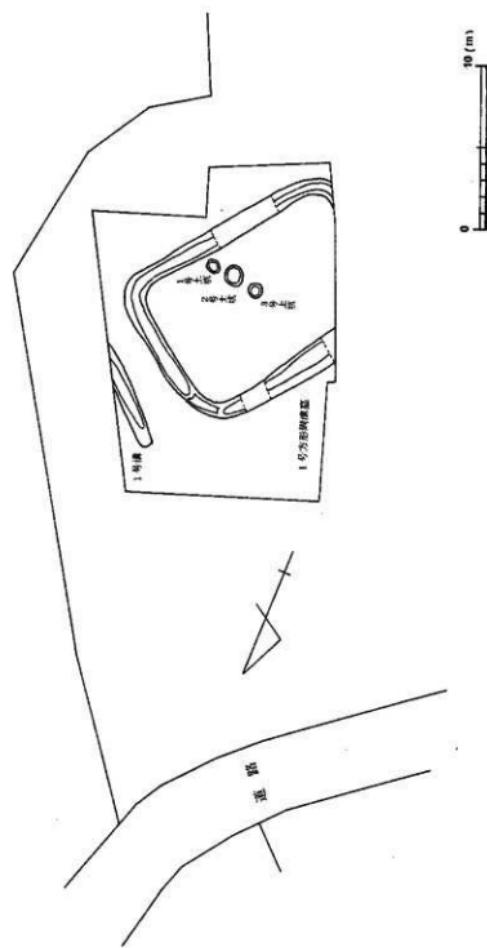
第I層 塗色土(耕作土)

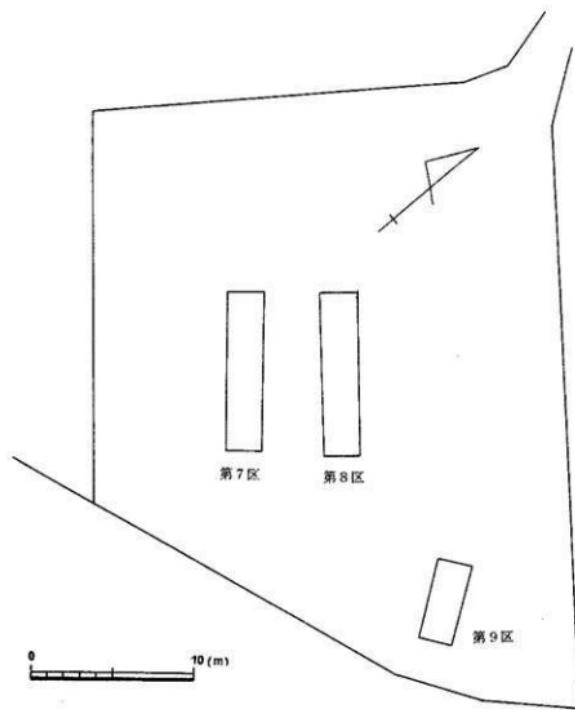
第II層 黄褐色ローム



第8図 調査区位置図 (1/5,000)

第9圖 I區全體圖





第10図 第7～9区全体図

第3節 検出した遺構と遺物

試掘トレンチの第7～9区では遺構・遺物は出土しなかった。したがって、以下に述べるのは、本調査である1区の成果である。

(1) 出土した遺構と遺物

1号方形周溝墓

調査区の中央からやや南側にかけて確認され、主軸は北-33°一東である。以下、説明する便宜上、四方の溝の名前とコーナーの名前を第12図にあるようにA～C溝、a～cコーナーと称することにする。周溝墓の長辺（北東～南西方向）は15m、短辺（北西～南東方向）は11m、溝の幅110～140cm、深さはB溝では40cmで浅めで、A溝では90cmと比較的深い。壁面は、台状部側の立ち上がりの度合いが強く、反対側は台状部側に比べると緩やかになる傾向にある。床面は、ほぼ平坦である。覆土は、黒色土と暗褐色土の2層で、ロームの混入具合でさらに分けられる。埋葬物と思われる掘り込みは、台状部からは検出されなかった。

出土遺物は、弥生時代後期の壺形土器の他、縄文時代中期の上器片、弥生時代前期中葉の土器片、黒曜石が出土した。

1は弥生時代後期の壺形土器で、口縁部から胴部上半部にかけて遺存している。口径14.0cm、色調は橙褐色。折り返し口縁で、外面は、口縁部の折り返し下部を押圧し、頸部から胴部にかけて、ハケメのちへラミガキ調整で、肩部に繩文が巡る。内面は、口唇部を繩文で飾り、口縁部はハケメ調整、頸部をヘラミガキ調整して、胴部はナデ調整で、輪積み痕を残す。bコーナー付近の覆土上層より出土。2は、弥生時代後期の壺形土器で、底部から胴部下半部にかけての遺存。底径8.0cm、色調は黒色。1と同一個体と思われる。bコーナー付近の覆土上層より出土。3は縄文地、4は刻目口縁で条線地に降線、5は縄文地に沈線で、いずれも縄文時代中期。6は外面が浮線網状文、内面は口縁部に3本の平行沈線で、弥生時代前期中葉。

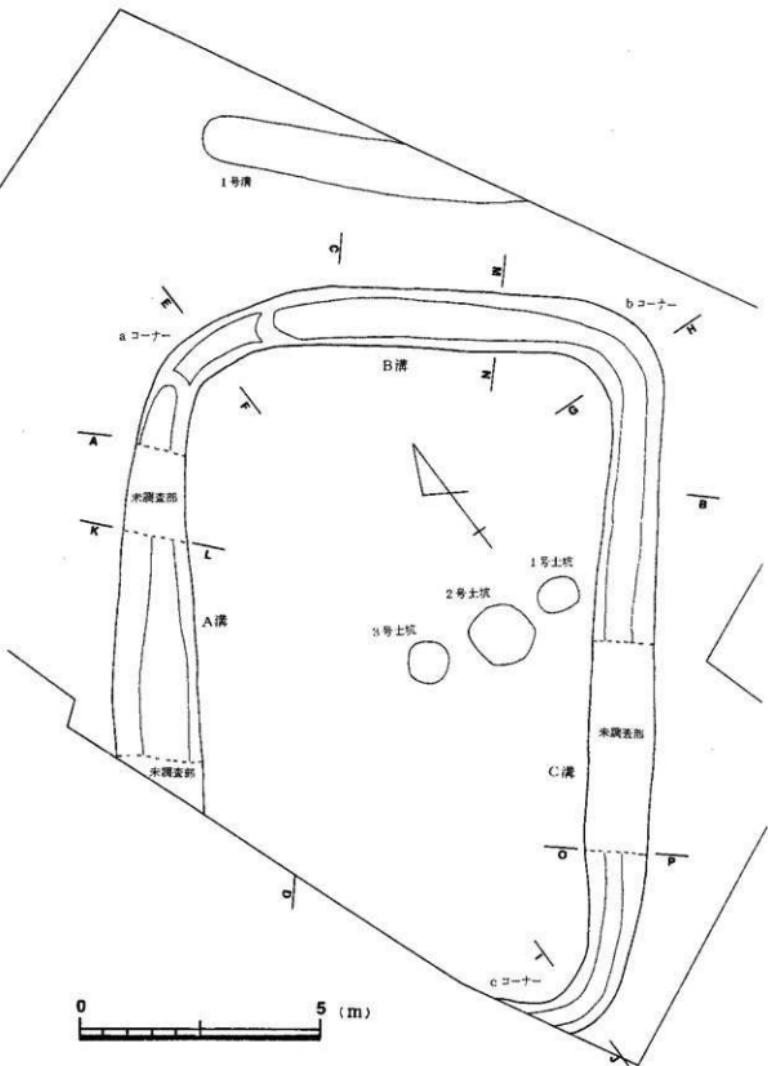
1号溝

調査区の東端で確認され、北西～南東方向に走る溝である。調査区内での長さが7mで、東側は調査区外に延びる。幅115cm、深さ60cmを測る。壁面は、急な立ち上がりを持つ。床面はほぼ平坦である。覆土は黒色土で、ロームの混入具合でさらに分けられる。

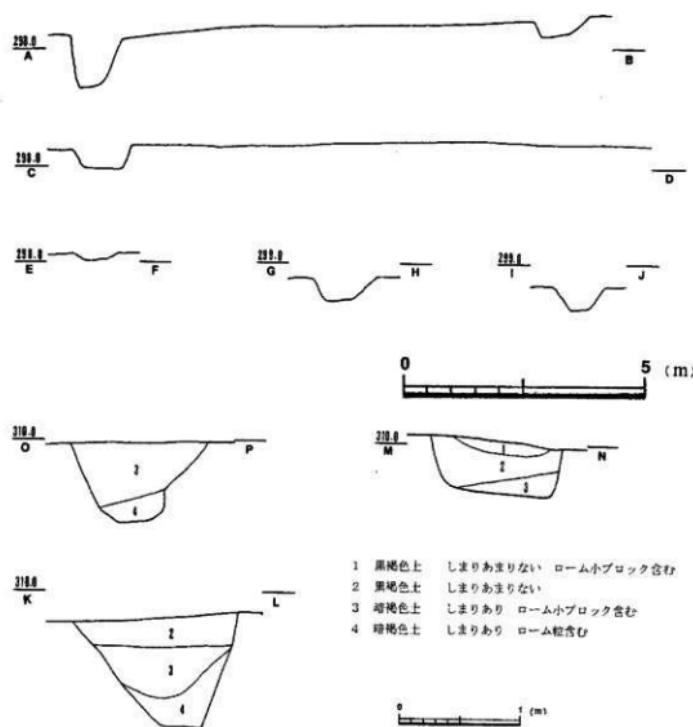
出土遺物は、弥生時代後期の壺底部と弥生時代前期中葉の土器片が出土した。7は壺の底部で、底径8.0cm、色調は橙褐色、胎土は白色石粒を含む。外面、内面ともにナデ調整。弥生時代後期。8は浮線網状文で、弥生時代前期中葉。

1号土坑

1号方形周溝墓の台状部内で確認され、東西に3基の土坑が横並びに出土したが、1号は1



第11図 1号方形周溝墓(1)

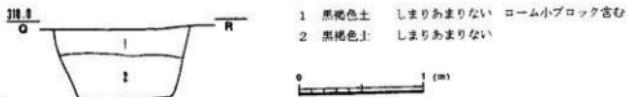
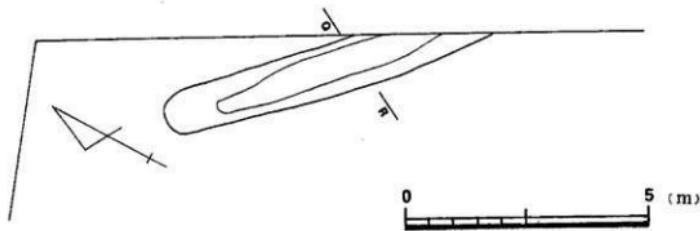


第12図 1号方形周溝墓（2）

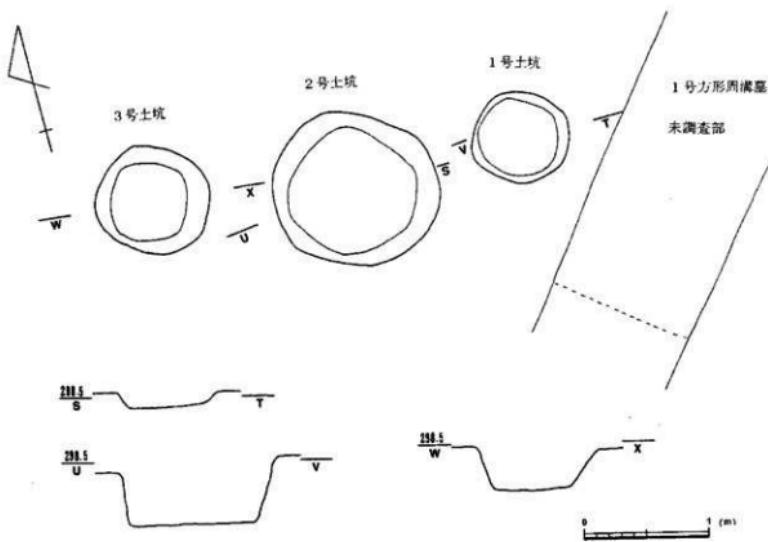
番東側のものである。円形を呈し、東西幅 85cm、南北幅 75cm、深さ 13cm。壁面は、急な立ち上がりを持つ。床面は東側に向かって上がっていく。覆土は黒色土である。出土遺物はない。

2号上坑

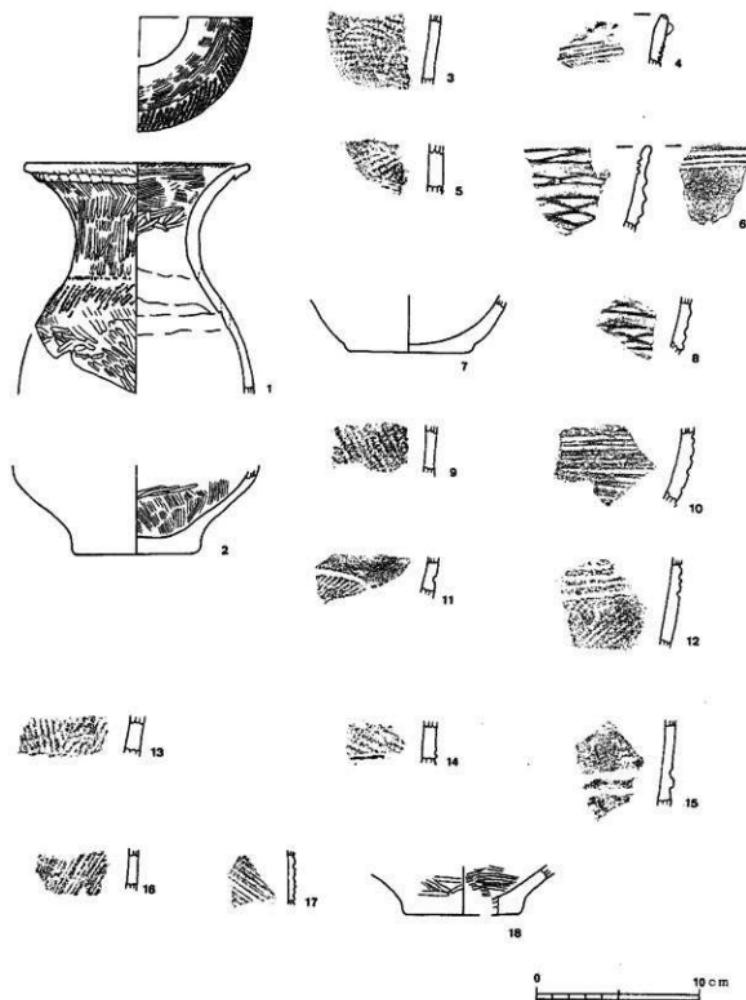
1号方形周溝墓の台状部内で確認され、東西に3基の土坑が横びに出土したが、2号は中央部のものである。円形を呈し、東西幅 140cm、南北幅 125cm、深さ 40~50cm。壁面は、急



第13図 1号溝



第14図 1~3号土坑



第15圖 出土土器

な立ち上がりを持つ。床面は、ほぼ平坦である。覆土は黒色土である。

出土遺物は、縄文時代中期の土器破片が1点と弥生時代前期後葉～中期中葉の土器破片が2点出土した。

9は縄文地で、縄文時代中期。10は条痕文で、弥生時代前期後葉～中期初頭。11は沈線区画内に縄文で、弥生時代中期初頭～中期中葉か。

3号土坑

1号方形周溝墓の台状部内で確認され、東西に3基の土坑が横並びに出土したが、3号は1番西側のものである。円形を呈し、東西幅96cm、南北幅90cm、深さ30～35cm。壁面は、急な立ち上がりを持つ。床面は、ほぼ平坦である。覆土は黒色土である。出土遺物はない。

12～18は、遺構外出土で、12は縄文地に沈線、13は縄文地、14は縄文地に半截竹管による沈線、15は降線の上下端に押引文、12～15は縄文時代中期。16・17は条痕文で、弥生時代前期後葉～中期初頭。18は壺の底部で、底径が7.6cm、条痕文で、色調は橙褐色、胎土は白色粒を含む。外面はヘラミガキ、内面はハケメ調整。底部に網代痕が残る。弥生時代後期。

第4節 まとめ

調査の結果、弥生時代後期の方形周溝墓が1基、同時期と思われる溝が1条、時期不明の土坑が3基発見された。

1号方形周溝墓は、西側の一部を調査しなかった。廃土置き場の確保のためだが、方形周溝墓の規模を把握することができたし、本遺構は、覆土からの出土遺物が少ない傾向にあり西側の溝もそれほど期待できないと判断したため、調査区を拡張せずに西側溝は調査しなかった。aコーナーでは、1段テラス状に高くして残しているのが観察でき、それをブリッジとみてよいのか、判断しかねるところである。出土遺物は、出土点数は少なく、bコーナー付近から覆土上層より弥生時代後期の壺と、各溝の覆土中から縄文土器や弥生前～中期の土器の破片が混入して出土した程度である。本遺構の年代は、コーナー部からの弥生時代後期の土器の出土から、同時期の造営と考えられる。

1号溝は、1号方形周溝墓と比較して覆土の様相、溝が走る方向等から見て同時期と思われ、1号溝もあるいは方形周溝墓の溝の一部なのかもしれない。

1～3号土坑は、土坑同士の時期は、おそらく同時期のものと思われるが、出土遺物がほとんど見られないで、時代を判断するのは大変難しい。2号土坑から弥生時代前期後葉～中期初頭の条痕文が施された土器や、弥生時代中期初頭～中期中葉の磨消縄文の土器の破片が出土していることから、その時期の可能性が強いが、流れ込みの可能性もあり、時期決定するまでの出土状況を呈するものではないので、今回はその可能性を指摘するにとどめて、時期不明の

土坑群としておく。1号方形周溝墓の溝の覆土中や遺構外からも同じ条痕文系の土器の破片が数点混入しているので、その時期の遺構がこの付近にあってもおかしくはない。

今回の調査で方形周溝墓の発見とともに、弥生時代前期中葉～中期中葉の条痕文系の土器が見つかったことも成果の1つにあげたい。同時期の土器は、豊富村周辺で言えば、平成15年度に実施された当遺跡の試掘調査時に条痕文が施された土器が1点出土し、また、大鳥居にある城原遺跡でも採集されている。曾根丘陵のいくつかの遺跡から出土していることが知られており、八ヶ岳南麓や富士北麓とともに、1つの分布圏を呈している。今回の調査で、本遺跡もその分布域内であることが確かめられた。

＜参考文献＞

- 中山誠二 1985 「甲斐における弥生文化の成立」『研究紀要2』山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 平野修他 1992 『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会他
- 森原明廣 1996 『菖蒲池遺跡』山梨県教育委員会
- 中山誠二 1999 「第2部第2章 3弥生時代の編年」『山梨県史(資料編2)』山梨県
- 岡野秀典 2004 『平成14・15年度村内遺跡発掘調査報告書』豊富村教育委員会

第5章 原遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村閑原字原、木原字山の神地に所在し、曾根丘陵の一角である台地上に立地する。

当遺跡内で中山間地域整備事業によるスポーツ公園造成事業が計画され、平成15年度より継続して試掘調査を実施した。調査面積は57m²である。

平成16年12月15日 発掘調査を開始

平成16年12月15日 発掘調査を終了

平成16年12月22日 山梨県教育委員会に発掘報告書を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて1.5×8~10mのトレンチを4か所設定し、それぞれに8~11区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは20~50cm前後である。

第Ⅰ層 褐色土（耕作土）

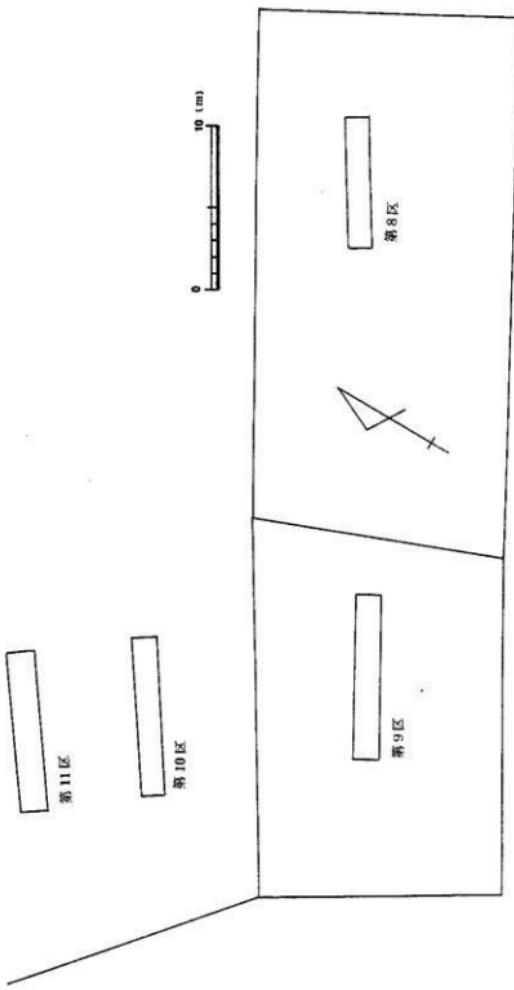
第Ⅱ層 黄褐色ローム

第3節 まとめ

調査の結果、遺構・遺物ともに出土しなかった。昨年度の調査でも遺構の検出は見られず、この台地にある遺跡の中心は、本遺跡の東に隣接する東原遺跡になるのかもしれない。また、調査地周辺の畑地は、過去の土砂採取の痕跡がうかがえる箇所が多く、この際に遺構等が掘削されてことも要因の1つかもしれない。



第16図 調査区位置図 (1/5,000)



第17图 全体図

第6章 中尾遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字中尾に所在し、曾根丘陵の台地上に立地し、調査地は南面傾斜地の裾部である。

当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘調査を実施した。調査面積は4m²である。

平成16年12月16日 発掘調査を開始

平成16年12月16日 発掘調査を終了

平成16年12月20日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成16年12月22日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2mの試掘坑を1か所設定し、1区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは70cmほどまで掘り下げたが、第Ⅰ層の硬く締まった暗褐色土がさらに続くので、そこで掘り下げを止めた。

第Ⅰ層 暗褐色土

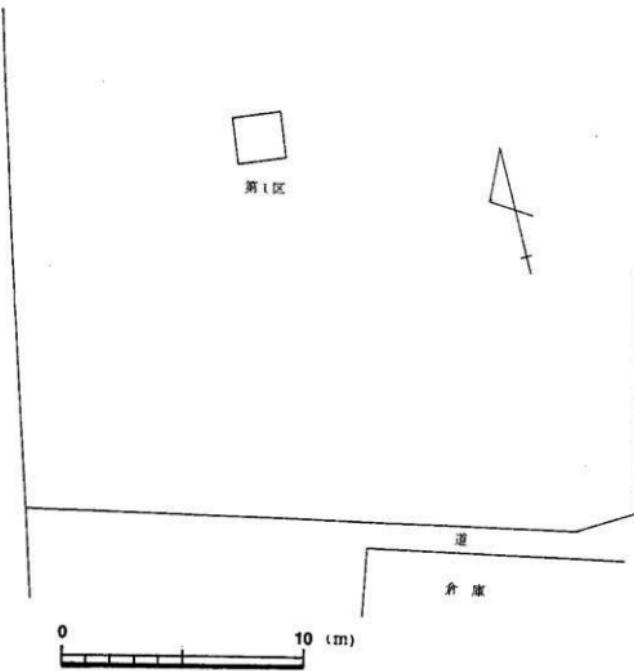
第Ⅱ層 黄褐色ローム

第3節 まとめ

調査の結果、第Ⅰ層より縄文時代中期の土器破片が9点ほど出土したが、遺構は出土しなかった。



第18図
調査区位置図 (1/5,000)



第19図 全体図



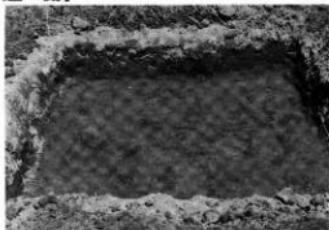
第20図 土層図

図版1 代中東遺跡・上野原遺跡・熊野原遺跡

(代 中 東 遺 跡)



調査前風景



第1区

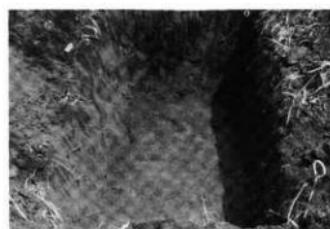
(上 野 原 遺 跡)



調査前風景



調査風景



第1区



第2区

(熊 野 原 遺 跡)

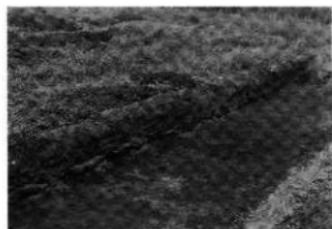


調査前風景(第7~9区)

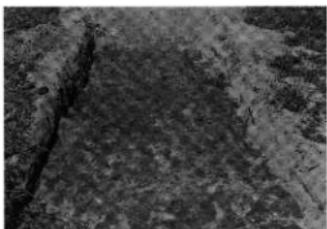


第7区

図版2 熊野原遺跡



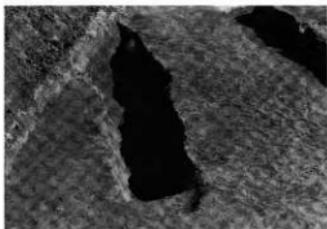
第8区



第9区



第1区全景



1号溝



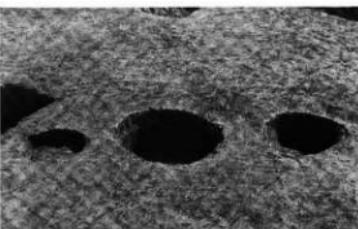
1号方形周溝墓



1号方形周溝墓土層（K-L）



1号方形周溝墓土層（M-N）



1～3号土坑

圖版3 熊野原遺跡

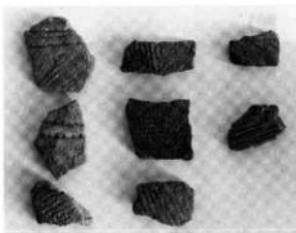


1号方形周溝墓出土土器（2）

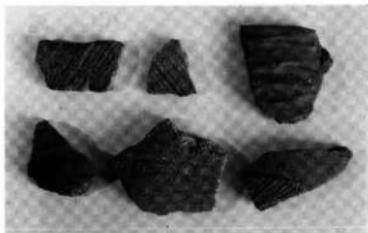


1号溝出土土器

1号方形周溝墓出土土器（1）



縄文土器



弥生土器

図版4 原遺跡・中尾遺跡

(原 遺 跡)



調査前風景



調査風景



第8区



第9区



第10区

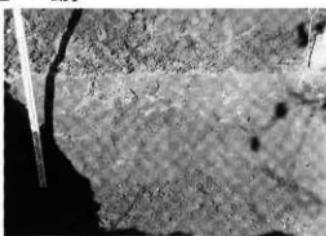


第11区

(中 尾 遺 跡)



調査前風景



第1区北壁土層

報告書抄録

ふりがな	へいせい 16 ねんどそんないいせきはくつちょうさほうこくしょ
書名	平成 16 年度村内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	豊富村埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 10 集
編著者名	岡野秀典
編集機関	豊富村教育委員会
所在地	〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居 3866 TEL055-269-2447
発行年月日	2005 年 3 月 31 日

豊富村埋蔵文化財調査報告書第 10 集

平成 16 年度村内遺跡発掘調査報告書

発行日 2005 年 3 月 31 日

発行所 豊富村教育委員会

〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居 3866

印刷所 村松コーハン社

〒409-3601 山梨県西八代郡市川大門町 574

